



日 口 交 流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



年頭にあたって

会長 有馬 朗人

新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。念頭にあたり考えますことは、自分の考えが正しいと信じるならば、どんなに反対があっても信念を貫き通すことは大切なことだということです。もちろん、そのためには信念がきちんとした論理と倫理に基づいたものでなければなりません。そしてまた、その考えの誤りや不完全さが確認され論理の不完全さや矛盾が明らかになった場合は、自らその誤りを正す勇気も必要です。私のささやかな研究生活の中でも、発表した考えが世界中の研究仲間を受け入れられずに苦労したことが幾度となくあります。例えば、原子核のベータ崩壊の寿命が長いことについて、我々の理論が認められるまで30年近くもかかりました。

私は運が良い方だとは思いませんし、失敗も多く経験し、研究上でも何度となく困難にぶつかりました。が、いつか解決するまでは決してあきらめない、どんな状況にあってももうひと頑張りしてみようという気持ちを持ち続けて努力してこれたのが有難いことだと思っています。

昨年は「日ソ共同宣言」から60年。日本とロシアの両首脳の間が実現し、今後の両国の関係が改善されることに期待しているのは、どなたも同じでしょう。ロシアは隣国であり欧州とアジアにまたがる世界一の領土をもつ大国です。残念ながらあまり知られておりませんが、親日で日本の文化に対する関心が非常に高いのです。自然への畏敬の念が強く、欧米よりもむしろ日本に近い感覚の国民性をもっていると思われまふ。俳句(三行詩)愛好家も多く、毎年俳句コンテストが実施されてたくさんのお応募があります。俳句は自然中心で叙景詩であり短詩であるために、エリートのみのものではなく大衆のものとして海外では革命的なことでした。また俳句に限らず、ロシア各地



に日本センターがあり日本について盛んに勉強されているようです。

昨年はまた3年連続して日本人が生理学・医学の分野でノーベル賞を受賞しました。そして、RIBFの建設から始まった理化学研究所仁科加速器研究センターのグループが113番元素の発見者として認定され、「ニホニウム」として命名されたのは大きな喜びです。日本の科学者が世界で活躍し認められているのは素晴らしいことです。

もちろん、基礎科学に優れた学者を多く輩出してきたロシアと、日本の応用科学との交流も重要であることは言うまでもありません。人類が活動している限り多量のエネルギーを必要とし、消費がさらに増えることは明らかであり、エネルギー問題はついてまわります。それに伴い温室効果ガスによる地球温暖化についても年々深刻になるばかりです。外国人の研究者を採用し共同研究することはレベルアップにつながるでしょう。

科学と技術におけるロシアの活躍は矚目すべきです。特に宇宙科学と原子力技術について我々はロシアに学ぶものが沢山あります。例えばもんじゅ型の高速度増殖炉について、もんじゅは廃炉にすることが決定しましたが、ロシアではBN600そしてBN800と成功し、BN800は現在どんどん発電しています。その上2025年にはBN1200を完成させる予定です。これは商業用のものとなると聞いています。このように増殖炉につきましても、日本もフランスも未だに完成させるに到りませんでした。ロシアは完全に成功しています。我々が大いに学ばなければならないのです。広くエネルギー問題について、特に原子力についてロシアと研究開発で協力すべきです。

また、若いうちに海外に出て異文化に触れ、国際的視野を持つことも必要です。日本の優れた文化、東洋の叡智と西洋の合理精神を融合し、世界に雄飛する若者、自分で考え行動することのできる創造性のある若者を育てなければなりません。そのことが世界の平和に繋がることでしょう。民間レベルの交流を推進される皆様のご健康と今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシアに関する講演会、在ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けております。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をよろしくお願い申し上げます。一口千円から、いくらでも結構です。

振込先: 郵便口座 00160-9-66486 加入者名: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 Tel: 03-5563-0626

* 亀田慶一郎氏、小林洋子氏、千葉麻里氏よりご寄付を頂きました。ご協力有難うございます。

● 懇話会スタッフ募集中: 080-4325-9981
simatatac@kzh.biglobe.ne.jp 川島まで

● 2017年新年会

日時: 2017年1月27日(金) 13:00~15:00

場所: PARTY for ETERNITY 銀座店

会費: 7000円

● 第17回通常総会

日時: 2017年3月24日(金) 14:00~15:00

場所: 新橋生涯学習センター 305号室

● 第38回マトリョーシカ絵付け教室

日時: 2017年1月22日(日) 13:00~16:00

講師: 菅野エレナ

場所: 田町駅みなとパーク芝浦、「リーブラ」2階学習室D2

会費: 3,000円(5個セットの教材、講師代、お茶代含む)

● 相撲観戦 (会員の方に限らせて頂きます)

日時、場所: 2017年1月9日(土) 国技館

● 日口交流バスツアー (会員のみとなります)

日時: 2017年2月25日(土)~26日(日)

場所: 水戸偕楽園、鹿島神宮、成田山

費用: 20,000円

* 詳しくは事務局へお問い合わせください。

☆留学生便り (35) ☆

ワガノワバレエアカデミーに留学して

高橋 斐乃

皆さん初めまして。私がアスタナに来て4ヶ月が経ちました。私は冬の季節が好きなのでこちらで過ごす初めての冬をとて楽しみにしています。今年は例年よりも早く雪が降りだして、真冬には-35℃にもなるそうなので、どんな景色が広がるのか今からワクワクしています。そして、先10月にはアスタナバレエ団初来日公演では沢山お世話になり、ありがとうございました。

その後のこちらの身の回りのことや、近況など少しお知らせしたいと思います。はじめに、私は15歳から約1年間日口交流協会のロシア語教室に通っていました。16歳からの2年間はロシア、サンクトペテルブルグにあるワガノワバレエアカデミーに留学し今年6月に卒業しました。7月からカザフスタンの首都アスタナにあるカザフスタン国立アスタナバレエ団に日本人バレリーナとして初めて加わりました。

私の住んでいるこの国には日本人は数十人しか居住していないのでめったに日本人に会うことはありませんが、こちらの皆さんはとてもおおらかな気風で親切な方々です。人に恵まれているので、とても充実している毎日です。私は友人をはじめ沢山の方々に「どうしてカザフスタン?!」と尋ねられるのですが、「カザフスタンが大好きだから」って答えます。丁度今から一年前にバレエ団の就職試験を受けにアスタナに着いた時に“ここ好きだな”と感じました。その時の現地滞在はわずかでしたが、その時間の中で“ここでやって行こう”と思いました。

小さい頃からの夢はロシアのバレエ団のバレリーナになることだったけれど、このオーディションが私にとっての大転換となりました。カザフスタンは旧ロシアの一部だったからなのかバレエがとても盛んです。公用語はロシア語ですが、カザフ語

ウズベキスタン便り (2)

日本語教室「NORIKO学級」の今日この頃②

寺尾 千之

旧ソ連から独立間もない1990年代半ばのウズベキスタンに、エンジニアとして赴任した大崎重勝さんは、日本人抑留者墓地の墓守を続けたウズベク人の思いやりに大変感動しました。少しでもそのご恩返しができればと、交流のあった子ども達の声に応える形で、リシタン市に日本語教室を開きました。17年を経た今、日本人訪問者とリシタンの人々との交流は深まり、NORIKO学級は異文化体験基地としての役割をも担うようになっていきます。

訪問時期により、ウズベキスタンの代表的伝統行事、ナウルズ(3月の新春を祝う祭り)や、イスラム暦に従い、毎年時期が異なるラマダン(断食)を、運よく体験することもできますが、参列機会に最も恵まれるのが夏の結婚披露宴です。真夏は気温40℃前後と、猛暑ですが、乾燥した空気のため、木陰が天然クーラーとなり、広い中庭などの屋外での披露宴が多くなります。近隣住民が延べ数百名も参列しますから、日本人訪問者が地元の人々と交流を深める絶好の機会にもなります。来賓のスピーチの合間のウズベクダンスタイムには、子どもから年配者まで、ほぼ全員がライブ演奏に合わせて楽しそうに踊ります。ダンスが日常的なウズベク人は、4-5歳で、既に大人顔負けのダンスを披露します。そんな中、無理やり手を引かれ、踊りの輪に入るのが、踊り慣れていない日本人です。

を話します。外見は私達日本人との違いがないので、私がサンクトペテルブルグに居た時に感じた外見から一目で異国人と思われることもありません。その分容赦なく話かけられるのでドキリとする場面もあります。

来年には万博が開催されるからなのでしょうか、街の景色も先週と今週では違っているぐらい急速に近代化が進んでいてとてもエネルギー感です。バレエに集中できる環境が整っていますし、生活面ではとても恵まれていてあまり困ることもありませんが、しいていえば電車が通っていないことや、バスも沢山の本数がないのでちょっと不便です。先日買い物に出かけていて目に入った少し先のビルまで行こうと歩き出したのですが、これが歩いても歩いてもまったく着かない!結局着かずじまい…

カザフスタンの広大さを実感しました。私にとって毎日、新たなチャレンジは続いています。

そして、私がこうして大好きなAstanaやアスタナバレエ団でバレリーナとして頑張っているのは、奇跡的な幸運が重なり沢山の方々のおかげです。これからも頑張ります。

●第1回『ロシア留学体験懇談会』のお知らせ

以前から要望の多かった留学の体験談を語り合う懇談会を開催いたします。講師にはかつての留学の効果を享受している経験者3人の方をお呼びしています。留学を考えている方、考えていない方なたでも結構です。ご参加ください。

日時:2017年2月18日(土)14:00~16:00

会場:港区立青山生涯学習館 学習室3 港区南青山4-18-17

会費:会員学生500円 一般学生/会員1,000円 一般1,500円

申込:氏名、電話、E-Mail等明記の上、協会事務局までお早めにお申し込みください。

見様見真似で踊る日本人の手には、「おひねり」のスム札やシルクのスカーフなどが握られることもあります。後で新郎新婦へのご祝儀として手渡す風習になっています。結婚式でのウズベクダンス体験は一生の思い出に残ることでしょう。

バザールは、生徒同伴なら、いつでも、どんなに広いバザールでも、迷子にならず安心して異文化を楽しめる場所です。総人口の約半数が24歳以下というウズベキスタンらしく、多数品揃えされた愛らしい揺りかごや金糸刺繍が施された豪華な婚礼衣装には目を奪われます。実は、この揺りかご、タダモノではありませんでした。生徒から「お兄さん夫婦の赤ちゃんを見に来て」と誘われ、お宅を訪問した際です。赤いカーテンとピンクの壁紙で明るくコーディネートされた部屋に、可愛い男の赤ちゃんをあやしてママとおばあちゃんが座っていました。部屋の真ん中に置かれた伝統的な揺りかご「ベシク」は、一見、



普通の揺りかごです。おばあちゃんがベシクメイキングをする様子を見て、伝統として代々受け継がれている理由を初めて理解できました。柔らかい木で作られた筒状の物は、実は「おむつ」など、赤ちゃんが健康に育つように、独特な工夫が随所に凝らされているのです。1歳半くらいまで、夜寝かすときだけ使われる健康ベッドのようでした。このように異文化を深く体験できるのも、これまで赴任されたボランティアとリシタンの人々の友好交流の賜物です。

(リシタン・ジャパンセンター事務局長)

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております



スヴァテキの年占い

スニコ・タチャーナ

スヴァテキ (Святки=神聖な祭りの日) で1月6日～19日の12日間に占いをしないのはロシア人ではないと言われています。占いは、現代のキリスト教の立場からは良くないこととされているが、古代スラブ人は占いの神を尊崇していたのです。

「占い」は、ロシアの冬の一番重要な「スヴァテキ」には欠かせません。それは1月6日の「ロシア正教のクリスマス前夜」に始まり、19日の「Крещенье (クレシエニエ) =イエス洗礼祭」の日まで続きます。昔は、悪いことが起こるのを恐れて12日間、誰も仕事をしませんでした。キリスト教以前の昔は、新しい年の祈りと吉兆の占いの儀式の時期でした。この時には、結婚・収穫・家畜の多産などについて占いをしました。また、同じ時期にコリヤダ (коляда) をしました。熊・馬・山羊・牛などの仮装をして町を歩いてあちこちの家の前で「コリヤヂキ」という歌を歌ったり、みんなの幸せと健康を祈る詩を吟唱したりする儀式です。

スラブ民族では、占い (гаданиеガダニエ) は「Гад」ガズ (運と幸せの神様) を礼拝する儀式の一つでした。占いの方法は世代から世代へと伝えられてきました。一年のうち占いをする時が2回、冬と夏の神聖な時期である「スヴァテキ」です。夏の時期の占いはとても簡単なもので皆一緒の遊びのようなものですが、冬には夜中に、それも一人だけで占うこともたびたびあったのです。占いをする前に飾りものは取り外し洋服の結び目をほどき、場合によっては髪をたらし裸になって靴も脱いだのです。

最も占いをするのに良い日は旧正月前夜 (ヴァン



『シベリア抑留 絵画が記録した命と尊厳』

絵=勇崎作衛、構成=石黒謙吾
彩流社刊、2016年 2300円+税

先日、京都府舞鶴市に行ってきた。目的は舞鶴引揚記念館への訪問と引揚棧橋を見ること。舞鶴港は入り組んだ湾内の奥にある内陸港で、内海は霧に包まれ、寂しさだけが漂う港だった。引揚棧橋は外国からの引揚者 (その多くはシベリア抑留者) が上陸したところ。木製のものが復元されて残されており、ポツリと港に突き出ている。だが、多くのシベリア抑留者たちが苦難のすえにようやくこの港にたどり着いたのだということを実感することができた。もちろんたどり着くことなく、いまだに数多くの日本人が氷の大地に眠っていることはいうまでもない。

本書は、三年間のシベリア抑留の後に帰還した勇崎作衛氏の画文集である。著者は、日本に帰還した後に家具商を営みつつ、シベリア抑留生活をスケッチし続け、六五歳から油絵に描きはじめた。全国で展覧会を開催したことで注目を集めた。これらの絵と文を石黒謙吾氏が編んだのが本書なのだが、著者本人は本書の完成を見ることなく2011年に亡くなった。

本書は、戦後直後に始まったシベリア抑留がいかなるものなのかを、絵をまじえ、わかりやすく示している。抑留者の生活は、いわゆる「シベリア三重苦」(飢えと寒さと重労働) とし

リイの夜の1月13日) とイエス洗礼祭の前夜 (グレシエニエの1月18日) です。旧正月の前夜 (Васильев вечер) には特別な料理 (クチャとヴァリエーニキ) を作ります。多くの人たちは1月14日がお正月の最後の日と考えており、1月15日になると正月飾りのモミの木をかたづけます。

1月19日に行われる冷水浴は占いの罪を洗い流すと信じられています。日没後、真夜中、日の出前は、占いには一番いい時間であると言われています。又、一番適した場所は、人がいなくて鬼が住んでいるようなところで、昔は道路の交差点の中のものでも危険な呪いや治療の占いをしました。又、門に上っている音聞き、さまざまに解釈する運命占いもしました。

一番人気があるのは旧正月の前夜にみる「夢占い」でした。その夜にみる夢は正夢になると言われており方法は様々でした。一番よく知られているのは「橋」と「井戸」です。寝る前に枕の下にマッチ棒で「橋」か「井戸」を作って置き将来の婚約者をお願いし唱えるのです。「影占い」も旧正月の夜 (1月13日) にします。紙 (新聞でも可) をしわくちゃにして皿の中に置き隣にロウソクを置きます。紙に火を付けて壁に映った影を見て占います。田舎には「鶏占い」、「おんどりとめんどり占い」というものもあります。

ソビエトの時代に新しい占いが生まれました。「シャンパン

占い」「モミの木占い」です。夜中にモミの木のまわりに12枚の紙を置きます。一枚の紙は一月を表します。朝になって、一番多くモミの木の葉っぱ (針) が落ちていた紙が一番ラッキーな月です。この占いを旧正月 (1月13日) にすると、良い年になることは間違いありません。

て知られているが、抑留者が経験したのはそれだけではない。様々な試練、苦難が彼らに襲いかかった。例えば、零下三十度で水を飲もうとして水筒に口をつけて、唇が離れなくなり、慌てて口を離したら、唇が裂けて血が大量に噴き出したという。まさに何でもない水筒が凶器と化した瞬間だった。さらに、満蒙開拓団出身の17歳の少年がみんなが寝静まった後に亡くなったとき、その少年にたかっていたシラミが、冷たくなった少年の体を離れ温かい著者の体に移ってきた。「シベリアで死を迎えることは、シラミにまで見捨てられること」だということを実感した著者の言葉はまさに涙をさそう。少年が死んでも、著者たちは翌日の労働のために寝なければならなかった。寝なければ体力を奪われ、自分が死んでしまうからだ。幼い少年さえも兵士たちとともに抑留され、重労働を強いられていたことはあまり知られてはいない事実である。

抑留者たちは何とかして生きのびようとした。犬も猫も野鳥も野草も、泥水に浸かった残飯をあさって食べたし、盗みもやった。死体が出れば、衣服を剥がして、自分で着た。まさに「人間の尊厳を無視した体験」だった。それでも多くの者たちが生きて帰るといふ願いがかなえられず亡くなった。本書に掲載されている著者の絵画は、決して芸術的とはいえないが、抑留者の生活の様子を細かく伝えるだけでなく、気持ちまでもわかりやすく表わしている。本書の絵を見て、文章を読んで、抑留者たちの「日々の暮らしが人間らしいそれとかけ離れていた」ことを理解し、「自分たちは生きていたんだ」という抑留者たちの大切な証を読者に知ってもらいたい。(島田顕)

お正月とクリスマスの休暇

津田 憂子

ロシアで一度冬を越した経験のある方であれば、クリスマスがお正月の後にやってくるをご存知のはずです。これは、ロシア正教がユリウス暦という古い暦を使っているためです。ロシアでは毎年クリスマスが1月7日にやってきます。

ロシアでもお正月とクリスマスの時期は「新年の休暇」と呼ばれる休暇期間があります。ただ、クリスマスの曜日がいつになるかによって休暇の長さも少しずつ変わります。ロシアでは毎年、労働・社会保護省が政令を出してその年の新年の休暇の期間を発表します。例えば今年はどうでしょうか。2017年の1月7日はちょうど土曜日です。公式発表では、翌週の月曜日は振替休日とならず、休暇期間は12月31日(土)～1月8日(日)までの9日とされました。ロシアでは12月31日が平日であれば労働日とされています。ただし、午前中のみといった具合に労働時間を短縮したかたちになりますが。去年の休暇は、1月1日(金)～1月10日(日)までの10日とされ、1月7日(木)の後の1月8日(金)は祝日にされました。今年は去年よりも1日短い休暇期間ですね。

ロシアに日本のお年玉に当たるものはありませんが、おせち料理としてよく出される料理が幾つかあります。筆者が一番好きなのは、直訳すると「毛皮を着たニンジンちゃん」という料理で、酢漬け(塩漬け)のニンジンに、玉ねぎ・卵のみじん切りをマヨネーズであえたものを重ね、トップにピーツと少しのマヨネーズをあえたものを毛皮のようにかぶせて出来上がりです。もちろん、家庭によって、或いは、お店によって味付けや見た目には違いがあります。このニンジンちゃんはネーミングが面白

くらすノダール便り

日本語を始めたのは?

濱田 韻史

日本からとても遠いロシアの街の一つ、クラスノダール。日本ではあまりなじみがない都市だと思います。地図で見るとロシアの西の端、黒海の近くに位置し、近隣には冬季オリンピックが行われたことで有名なソチがあります。一般に、ロシアは「寒い」というイメージがあるかと思いますが、クラスノダールは温暖な気候で、冬の間雪に閉ざされる…ということもなく、日本人にとって過ごしやすいと言えます。

私はそのクラスノダールにあるクバン国立大学で日本語講師をしています。この大学では、歴史・社会・国際関係学部の「国際地域研究・外交学科」と「世界史・国際関係学科」(今年度から日本語の授業開始)で日本語を学ぶことができ、現在は1年生、2年生、4年生そして大学院生が日本語を勉強しています。ここに住んでいる日本人はとても少なく、日本から離れているため観光客もほとんど見かけない環境で日本人と接する機会が少ないながらも、学生たちは毎日がんばって日本語学習に取り組んでいます。

今日は、2016年9月から日本語を勉強している1年生たちについて少し紹介したいと思います。新入生がどんな気持ちから日本語学習を始めたか、そして将来日本語を使ってどんなことがしたいか聞いてみました。

問：どうして日本語を勉強しようと思いましたか?

①「アニメ」「マンガ」が好きだから。

こどものときから日本のアニメ・マンガを楽しんでいる学生がとても多く特にNARUTOやDEATH NOTEの人気の高いです。

いだけでなく、見た目も綺麗で、味も抜群ですよ。

ロシアで年越しを迎えていたとき、テレビのチャンネルのどこかで大晦日には決まった映画が流れていました。「運命の皮肉」と「モスクワは涙を信じない」です。「寅さん」や「北の国から」シリーズのロシア版のような感じです。今年はどうなのでしょう。紅白歌合戦のように、歌番組も色々あります。

新年の休暇を国外で過ごす人もいますが、ロシアならではのハプニングが起きることもあります。何年も前の話ですが、ちょうど年末を控えた時期(12月24日頃)にモスクワ南にあるドモジドボ国際空港の電線ケーブルが落下したつららで切断されてしまい、大規模な停電が発生したことがあります。停電ですので飛行機の発着ができません。空港に寝泊まりする人々が大勢発生しました。ドモジドボ空港に発着できない便は応急処置として北のシェレメチボ空港に急遽回されたのですが、今度はシェレメチボ空港が許容量を超える便を引き受けることになり、パニックに陥りました。筆者はちょうどこのつらら事件が起きた4日後にシェレメチボ空港から休暇に出発する予定でしたが、案の定空港内は人でごった返し、この混乱に伴うゴタゴタのせいで飛行機の席が勝手にキャンセルされていました。こんな不可解な出来事、なかなかありませんよね。

さて今年は皆さん、どんなお正月休みを迎えるのでしょうか。ゆっくり静かに家で過ごすのもよし、アクティブに旅行するのもよし、家族や友人と大切な時間を共有したいものです。

(JST 研究開発戦略センター・フェロー)

②「音楽」「芸術」に興味があるから。

アニメやマンガをきっかけにして他のことにも興味を持った学生が多かったです。音楽はヴィジュアル系バンド(GazettEなど)が好みようです。芸術については葛飾北斎の神奈川沖浪裏がとても好きだと答えた学生がいました。

③小さいときから日本に関係するものが好きで、自分の人生と日本に関係づけたいと思ったから。

と、いう声もありました。

問：日本語を使って将来何がしたいですか?

①(仕事・観光問わず)日本に行って、日本の文化を実際に感じたい。

とにかく日本に行きたいという答えが目立ちました。伝統的、昔の日本が残っているというイメージがあるせいか京都に行きたいというのが一番多かったのですが、その他に日本の田舎や、ネットで見た猫がたくさん住んでいる島に行きたいというのもありました。日本に滞在する中で日本人と日本語で交流したいという思いがあるようです。

②日本で/日系企業で働きたい。

企業に勤めるのではなく、日本でマンガを描きたいと答えた学生がいました。ロシアと全く違う環境に身をおくことで、何かいいものが描けると感じているようです。

③通訳・翻訳家になりたい。

語学力を活かしてマンガやアニメの翻訳をしたい学生も多かったです。

記事を読んでくださったみなさん、クラスノダールへお越しの際は、ぜひ大学にもお立ち寄りください。そしてぜひ学生たちに会って行ってください。(クバン国立大学講師)